

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成14年12月調査分)

景気の現状判断DI

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月	前回調査比
茨城県	21.9	38.5	+16.6
県北地域	18.0	30.3	+12.3
県央地域	24.6	40.6	+16.0
鹿行地域	22.3	38.4	+16.1
県南地域	24.6	40.1	+15.5
県西地域	20.3	43.4	+23.1

景気の先行き判断DI

	平成14年9月 (試行分)	平成14年12月	前回調査比
茨城県	41.2	34.9	-6.3
県北地域	33.8	31.6	-2.2
県央地域	41.8	38.8	-3.0
鹿行地域	42.3	35.2	-7.1
県南地域	46.5	34.0	-12.5
県西地域	41.8	34.9	-6.9

平成15年1月14日

茨城県企画部統計課

目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
(1) 景気の現状判断D I	4
(2) 景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
(1) 景気の現状判断D I	5
(2) 景気の先行き判断D I	6
3 回答率	8
景気の判断理由	9
1 景気の現状判断理由	9
2 景気の先行き判断理由	14
3 その他の意見	19

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人たちから、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1) 対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

(2) 調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業(食料品、一般機械器具等)、建設業、金融業等			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
	計			60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見(自由回答)

4 調査月及び調査期間等

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回であり、調査期日は概ね調査月の15日から25日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1)景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは38.5であり、9月試行分と比べて16.6ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連すべてのDIが9月試行分を上回った。なお、横這いを表す50を9月試行分に引続き下回った。

表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		21.9
家計動向関連	家計動向関連	20.8	36.3
	小売関連	23.5	30.4
	飲食関連	8.8	44.4
	サービス関連	20.5	40.9
	住宅関連	25.0	10.0
企業動向関連	企業動向関連	23.2	41.5
	農林水産業	21.9	43.8
	製造業	25.0	46.6
	非製造業	20.7	33.3
雇用関連		26.1	43.5

表1-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.7%	15.5%	39.6%	39.2%
平成14年12月	3.3%	14.7%	32.6%	31.5%	17.9%

(2)景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは34.9であり、9月試行分と比べて6.3ポイント下回った。業種別にみても、雇用関連が同じDI値になったものの、家計動向関連及び企業動向関連が9月試行分を下回った。なお、横這いを表す50を9月試行分に引続き下回った。

表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		41.2
家計動向関連	家計動向関連	40.8	34.1
	小売関連	40.8	32.7
	飲食関連	30.9	34.7
	サービス関連	42.8	35.6
	住宅関連	40.6	25.0
企業動向関連	企業動向関連	42.7	35.4
	農林水産業	34.4	40.6
	製造業	44.0	37.5
非製造業	42.9	30.8	
雇用関連		39.1	39.1

表1-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	1.1%	8.9%	53.9%	26.2%	9.9%
平成14年12月	1.1%	7.3%	40.3%	32.6%	18.7%

2 地域別の動向

(1)景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは30.3であり、9月試行分と比べて12.3ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。なお、DI値30.3は全県を通じて最も低かった。

表2-1 景気の現状判断DI

分野		調査日時	
		平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
合計		18.0	30.3
家計動向関連		18.6	28.6
企業動向関連		13.2	30.9
雇用関連		30.0	40.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	3.5%	12.3%	36.8%	47.4%
平成14年12月	0.0%	8.8%	33.3%	28.1%	29.8%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは40.6であり、9月試行分と比べて16.0ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野		調査日時	
		平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
合計		24.6	40.6
家計動向関連		24.3	40.3
企業動向関連		25.0	42.2
雇用関連		25.0	37.5

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.4%	17.9%	46.4%	30.4%
平成14年12月	3.6%	17.9%	30.4%	33.9%	14.3%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは38.4であり、9月試行分と比べて16.1ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。

表2-5 景気の現状判断DI

分野		調査日時	
		平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
合計		22.3	38.4
家計動向関連		22.2	33.3
企業動向関連		23.3	48.4
雇用関連		18.8	40.0

表2 - 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.5%	16.4%	40.0%	38.2%
平成14年12月	3.7%	13.0%	37.0%	25.9%	20.4%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは40.1であり、9月試行分と比べて15.5ポイント上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回った。

表2 - 7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		24.6
家計動向関連		22.1	40.2
企業動向関連		30.9	42.2
雇用関連		20.0	31.3

表2 - 8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	5.3%	19.3%	43.9%	31.6%
平成14年12月	7.5%	13.2%	28.3%	34.0%	17.0%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは43.4で、9月試行分と比べて23.1ポイント上回り、DI値が全県を通じて最も高く、また上昇幅が最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を上回り、特に雇用関連は50を大幅に上回った。

表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		20.3
家計動向関連		16.4	39.5
企業動向関連		23.6	44.1
雇用関連		35.0	65.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	8.6%	12.1%	31.0%	48.3%
平成14年12月	1.9%	20.8%	34.0%	35.8%	7.5%

(2)景気の先行き判断DI

県北地域

3か月前の景気の先行き判断DIは31.6であり、9月試行分と比べて2.2ポイント下回った。業種別にみると、企業動向関連及び雇用関連が9月試行分を上回ったものの、家計動向関連が9月試行分を下回り、全体値を押し下げた。なお、DI値31.6は全県を通じて最も低かった。

表2-11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		33.8
家計動向関連		35.7	27.1
企業動向関連		30.9	38.2
雇用関連		30.0	40.0

表2-12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	7.0%	36.8%	40.4%	15.8%
平成14年12月	1.8%	1.8%	38.6%	36.8%	21.1%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは38.8であり、DI値が全県を通じて最も高かったものの、9月試行分と比べて3.0ポイント下回った。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を下回った。

表2-13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		41.8
家計動向関連		41.7	39.6
企業動向関連		46.7	42.2
雇用関連		25.0	18.8

表2-14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	7.3%	60.0%	25.5%	7.3%
平成14年12月	0.0%	12.5%	42.9%	32.1%	12.5%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは35.2であり、9月試行分と比べて7.1ポイント下回った。業種別にみると、家計動向関連及び企業動向関連のDIが9月試行分を下回った。

表2-15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		42.3
家計動向関連		45.1	33.3
企業動向関連		36.7	35.9
雇用関連		37.5	45.0

表2-16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	9.1%	60.0%	21.8%	9.1%
平成14年12月	0.0%	11.1%	40.7%	25.9%	22.2%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは34.0であり、9月試行分と比べて12.5ポイント下回り、下降幅が全県を通じて最も大きかった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連全てのDIが9月試行分を下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		46.5
家計動向関連		42.1	37.1
企業動向関連		54.4	28.1
雇用関連		50.0	31.3

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	5.3%	12.3%	52.6%	22.8%	7.0%
平成14年12月	0.0%	5.7%	43.4%	32.1%	18.9%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは34.9であり、9月試行分と比べて6.9ポイント下回った。業種別にみると、雇用関連DIが9月試行分を上回ったものの、家計動向関連及び企業動向関連DIが9月試行分を下回った。なお、雇用関連は先行き判断DIが50を上回った。

表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成14年 9月(試行分)	平成14年 12月
	合計		41.8
家計動向関連		39.3	33.1
企業動向関連		44.4	32.4
雇用関連		50.0	55.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成14年9月(試行分)	0.0%	8.6%	60.3%	20.7%	10.3%
平成14年12月	3.8%	5.7%	35.8%	35.8%	18.9%

3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全県	300人	273人	91.0%
県北地域	60人	57人	95.0%
県央地域	60人	56人	93.3%
鹿行地域	60人	54人	90.0%
県南地域	60人	53人	88.3%
県西地域	60人	53人	88.3%

景気の判断理由

1 景気の現状判断理由

(1) 県北地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	スナック	ボーナス時期のためか、客数は増加している。ただし、店にいる時間は短い。	
		タクシー運転手	忘年会や新年会の開催時期なので売上げ増加が見込める。	
	企業関連	理・美容店	七五三や結婚シーズンで売上げが増加した。	
		製造業（電気機械器具）	電子機器関連部門の受注が増加した。	
変わらない	雇用関連	人材派遣業	短期間ではあるが、派遣人数が伸びている。	
		家計関連	コンビニエンスストア	売上額や来客数に変化が見られない。
	家電販売店			
	小売店（靴製品）			
	レストラン			
	食堂			
	タクシー運転手			
	企業関連	ゴルフ場	景気に変化しているという感じがしない。	
		パチンコ店	客数が多少増加したが、客単価の低下より、結果的に相殺されてしまっている。	
		衣料品専門店	売上額は前年より増加したが、秋の行楽シーズンの終わりとともに客足は落ちている。野菜等の必需品は購入するが、土産物の客単価は低下している。	
		農産物直売所	正社員としての就職先を探しているが見つからないという、パート労働者からの話を聞く。	
		レジャー施設	受注の増加は一過性であり、すぐ元に戻るか減少となる。	
		製造業（電気機械器具）	取引先の話によると、受注量が増加していないとのことである。	
		製造業（電気機械器具）	非製造業（建設業）	小康状態が続いている。
非製造業（建設業）		資金力に不安があり、設備投資に力を入れることができない。		
雇用関連	人材派遣業	年末の季節的要因のためか派遣契約者が増加し、売上額も若干増加したものの、全体的には変化はない。		
やや悪くなっている	家計関連	小売店（酒類）	飲酒運転取締りの強化や酒類販売自由化により従来の小売店は淘汰されている。流通の時代の変化であり仕方ないと思う。	
		居酒屋	客単価を引き下げることによってようやく客数を維持しており、利益確保が難しくなっている。	
		割烹料理店	他店舗の客の少なさに驚いている。客の財布のヒモがますます固くなっているように感じる。	
		観光型ホテル	売上げは比較的安定しているが、取引業者の撤退等がみられるようになった。その結果経費の増加となり、減益の恐れがある。	
		旅行代理店	海外・国内旅行を問わず、低額商品の取扱い件数が多い。宿泊及び各種チケットは金券ショップまたはインターネット利用による入手が増加している。	
		タクシー運転手	一日の営業回数が減少し、飲食店関係者の利用も減少している。	
		ドライブイン	例年冬期は売上げが落ち込む。	
	企業関連	レジャー施設	入場者数と客単価が減少している。	
		農林水産業関係者	原木は売れているが、採算割れを起こしており、製材も廉価のままである。住宅需要がないことが原因と思われる。	
		製造業（食品）	商品単価の低下により、利益が減少している。	
		製造業（輸送用機械器具）	関連企業の受注量が減少しており、また倒産しているところがある。家電業界を中心に生産拠点の海外移転が増加している。	
		非製造業（金融業）	地元企業は受注量の減少や手形の決済期限の長期化といった影響により、資金繰りが圧迫されている。また倒産も依然減少していない。	
		雇用関連	求人広告	アルバイトの形態で求人募集する企業が多い。
			求人広告	地元企業は業績の悪化によるリストラ・規模の縮小・閉鎖を依然続けており、雇用増には消極的である。また商店街の店舗はほとんどが閉店となっている。
公共職業安定所	9月から12月にかけて、企業の人員整理や倒産により新規求職者数が増加している。年齢別に見ると、特に中高年の増加が著しい。			
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	ますます来客数が減少している。ボーナスが支給されたが、その効果がない。	
		スーパー	客数は前年比で変化ないが、買い渋り対策による低価格販売のため、全体の売上げが減少している。	
		スーパー	売上げが昨年を割った。他社の状況も同様である。年末ギフトも前年比で単価・数とも減少した。例年この時期は箱入りみかんなどの売上げが増加するが、今年は400から500円の袋入りを購入していく。	
		コンビニエンスストア	売上げが減少している。	
		小売店（土産物）	御歳暮時期にもかかわらず、客単価が低下している。	
		卸売業	在庫量が増加している。	
		都市型ホテル	景気が悪くなるという話をする人数が増加している。	
		観光型ホテル	クリスマス、忘・新年会に合わせた企画を実施しても、週末以外は予約が入らない状況であり、官庁関係・団体職員・企業といった大規模の宴会や宿泊が激減している。また、客の構成は当施設の関係者・知人・取引業者となっており、新規客が少ない傾向である。	
		クリーニング店	低料金チェーン店進出により競争が激しい。客単価の低下。人口の減少。	
		企業関連	非製造業（不動産業）	取引先の持参するカレンダーや手帳が大幅に減少した。また、当社からの年賀状の発送枚数が減少した。

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	企業関連	農林水産業関係者	シラス漁は豊漁であったが、まき網漁の大不漁が影響している。
		製造業（一般機械器具）	受注量が減少している。
		製造業（電気機械器具）	
		非製造業（情報処理サービス）	

(2) 県央地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	家計関連	割烹料理店	12月は忘年会シーズンで来客数が増加した。	
	企業関連	非製造業（建設業）	受注は好調で、前年に比べ大きく伸びている。価格競争はやや下げ止まりを見せており、価格は底値と思われる。また同業他社の倒産や廃業により、業者数が減少していることも安定した受注の要因である。	
やや良くなっている	家計関連	都市型ホテル	忘年会シーズンにより客数・売上げが増加している。	
		タクシー運転手	売上げが増加傾向である。	
		ファミリーレストラン	ボーナスが支給されたためか夜の繁華街の人出が多い。また飲食店からの依頼も増加している。	
		タクシー運転手	12月はボーナスが支給されたためか、財布の中身に余裕が感じられる。	
	企業関連	理・美容店	秋期に比べれば、年末は多少はよい。ただし、例年と比較すると若干目減りしている。	
		製造業（出版・印刷業）	夏頃よりは受注量が増加している。	
		製造業（金属製品）	今までは設備投資の凍結などで高額な物件の引合いが極端に少なかったが、ここにきて引合い件数が増加してきている。発注先は同業者からが多いので、先行投資的な設備投資が少し動き出したと感じている。	
		製造業（一般機械器具）	年末を迎え、生活物資の流通量が増加しており、輸送手段のトラックが不足しているほどである。	
変わらない	家計関連	非製造業（輸送業）	年末を迎え、生活物資の流通量が増加しており、輸送手段のトラックが不足しているほどである。	
		観光型ホテル	客数・売上額に変化は見られない。	
		タクシー運転手	来客数の減少や客単価の低下が見られる。	
		ドライブイン	依然として客の購買意欲が低く、年末商品の売行きも悪い。	
		ゴルフ場	買上額・買上率の低下や低価格への集中など、ますます食費を抑制する傾向がうかがえる。	
		商店街代表者	企画物にはそれなりの反応があるものの、来客の顔ぶれに変化がなく、また売上げにも伸びがみられない。	
		スーパー	年末年始の期間だけをみると、海外バック旅行が前年比で9割増加した等回復した感があるが、年末前と年始後は良くない。	
		レストラン	来客に土産物を厳選して購入する傾向が見られる。	
	企業関連	旅行代理店	来客に土産物を厳選して購入する傾向が見られる。	
		レジャー施設	来客に土産物を厳選して購入する傾向が見られる。	
	雇用関連	求人広告	売上額に変化がない。	
		公共職業安定所	賃賃において、法人契約から個人契約への切替えが増加し、また法人契約の単価の低下が見られる。地価の下落が止まらない分土地の売買は容易になっている。	
	やや悪くなっている	家計関連	求職者	求人広告の内容に変化がない。
			百貨店	業務委託業から電気機器・自動車部品製造等の大量求人者が申し込まれた結果、新規求人数は18か月ぶりに前年を上回った。しかし、臨時求人数が3か月前より大幅に増加していること等雇用環境は厳しく低水準で推移している。
家電販売店			売上額が減少している。	
ドライブイン			売上額が減少している。	
観光名所			来客数の減少や客単価の低下が見られる。	
ゴルフ場			来客数の減少や客単価の低下が見られる。	
商店街代表者			商店街に来る客数が減少しているように感じ、また各店舗の売上確保が困難になってきている。余計な物は購入しないという雰囲気が出来上がっている感じがする。	
スーパー			競合他社等の影響で、売上額や客数等あらゆる方面で伸び悩んでいる。	
スーパー			客数に変化はないが、セール品といった低単価商品の購入がほとんどで、客単価が低下している。余分な買い物や買いためはしなくなっている。	
ショッピングセンター			広告を出しても、特価品しか売れない。競合関係の激化で低価格の商品が多く利益につながらない。客数が減少しており、閉店するテナントもある。	
自動車販売店			高額車に関しては、新型のモデルチェンジ車が発売されても購入意欲が起らない客が多い。	
ガソリンスタンド			必要な物以外は購入しない。（ガソリンのみ。関連部品は安くても購入しない。）	
レストラン			例年ボーナス時期に利用していた客が、支給額減少のためか、今年は利用を見送ったとのこと。また、クリスマス・おせち関係の注文が減少した。	
都市型ホテル			忘年会シーズンとなったが、昨年と比べ客単価やオプション（追加料理やコンパニオン等）の減少が見られる。また、忘年会と新年会を両方行う企業等は減少していると思う。	
パチンコ店		ボーナス支給時期にもかかわらず客数が増加しない。		
レジャー施設		賃賃料の未払客の支払いが悪くなっている。		
企業関連		農林水産業関係者	農家に活気が感じられない。	
		製造業（出版・印刷業）	本来ならば、年末ということで営業も工場も忙しい時期だが、忙しさが感じられない。	
	製造業（一般機械器具）	9月頃までは半導体関連の仕事が増加しつつあったが、10月以降再び減少している。		
	非製造業（広告代理業）	顧客は見積単価の再提出等、価格に対してさらに敏感になってきている。		
		非製造業（コンサルタント業）	消費力が弱ってきている。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	百貨店	客数に増減はないが、客単価・買上率は低下している。客は充分吟味したうえで購入することが多くなり衝動買いは減少している。
		理・美容店	売上げが減少している。
		住宅販売会社	具体的内容の打合せのできる客数が減少している。また具体的な打合せ段階になっても他社との競合は当然のように行い、資金の無理はしない。
		建築設計事務所	新規物件の予定がなく、また新規の設備投資の話も聞かない。
	企業関連	製造業(食品)	販売量が減少している。
		製造業(土石製品)	個人の顧客からの受注が激減している。
		非製造業(金融業)	ボーナス資金を借入れしても、ローン返済の厳しい人がある。

(3) 鹿行地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	農林水産業関係者	外国産の輸入が制限されていることと天候不順で特に根菜類の価格が高騰している。
		製造業(食品)	年末ギフトやおせち料理等季節商品の売上げが増加している。
やや良くなっている	家計関連	商工会役員	年末・年始の休暇で、需要が少々増えると思われる。
		スーパー	年末・クリスマス商品が売れ、売上高が増加している。
		観光型ホテル	忘年会シーズンなので、宴会の利用客が多い。以前は利用の少なかった平日にも予約が増えている。
	企業関連	レジャー施設	10月から12月前半まで低迷期が続いたが、中旬以降は上向きに転じている。
		製造業(化学工業)	海外プラントの操業停止等外部要因が主だが、売上げ・利益ともに増加している。
		製造業(金属製品)	工場の生産量が品目によりばらつきがあるものの全体的に増加した。
		非製造業(輸送業)	物資の流通量がやや増加しており、車の稼働率が上昇している。ただ年末の一時的なものという可能性もある。来年の1月中旬以降の動きが非常に気になる。
変わらない	家計関連	商店街代表者	悪くも良くもなっていない。
		スーパー	ギフト商品の販売数が前年と同様である。
		コンビニエンスストア	客の購入の様子からは変化がない状況だが、若年層の買い控えが見られる。
		コンビニエンスストア	不景気を理由として、年末年始向け商品(御歳暮、クリスマスケーキ、おせち等)の予約に消極的な客が多い。
		理・美容店	不景気に慣れてしまったためか、以前ほど景気が悪いという人が少なくなってきた。
		サービス業	受注量がそれほど増加していない。
	企業関連	住宅販売会社	展示場への来客数に変化がない。
		農林水産業関係者	年末のためか、貝類(産地直送販売)の売上げが個人・企業ともにやや増加しているが、全体的には変わりが無い。
		製造業(印刷業)	年末はもっと景気が良くなって当然のはずだが、9月頃と比べても良いとは感じられない。
		製造業(窯業・土石製品)	関連会社・取引先も含め、受注量が不足している。個人消費も伸び悩んでいる。
		製造業(電気機械器具)	職場の会話でも明るい話題が出てこない。
雇用関連	人材派遣業	年末の季節要因で一時的に売上げがあったものの、依然として厳しい状況である。	
	民間職業紹介業	求職者がかなり多いのに対し、企業の求人数は依然として少なく大変厳しい状況が続いている。	
	職業安定所	求職者の滞留状況は相変わらずである。高卒予定者の求人申込数も引き続き低調。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	大型飲食チェーン店の進出による個人経営の居酒屋・食堂の廃業が見られる。
		小売店(薬品)	売上げ額が減少している。
		書店	読者人口の減少や価格競争により売上げ額が減少。商店街の集客不足も影響している。
		都市型ホテル	多種多様なイベントを実施しているが、商品の魅力不足のためか客を思うように呼べない。
		タクシー運転手	駅の乗客数が減少した。特にビジネスマンが減少。
		観光名所職員	オフシーズンのためか、入館者数が減少している。
	企業関連	クリーニング店	客足が著しく落ち、一人あたりの品数が少なくなってきた。
		非製造業(住宅設備施工業)	売上げ額が減少している。
		非製造業(輸送業)	失業や店舗の閉鎖等が増加しているほか、暗い話題を目や耳にすることが多く心理的にもマイナスである。
		非製造業(金融業)	勤労者については賞与カットやリストラの話が増加している。建設業は、公共工事や民間設備投資の抑制の影響で受注量が減少している。
雇用関連	雇用相談員	大企業の海外移転により、業務量が以前の3割程度に落ち込んでおり、事業の縮小や雇用減を予定している事業所が多い。	
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	ワールドカップ、インターハイといった大きなイベントが終了し、客数・売上げともに減少している。
		商店街代表者	売上げが減少している。また、周囲の商店主等も異口同音に悪い話はかりである。
		衣料品販売店	客単価の低下。
		家電販売店	高額商品の売上げが鈍化(特に映像関連機器、冷蔵庫)している。情報関連機器は前年比6~7割程度しか売上げがない。
		自動車販売店	経営者クラスの客は、リストラ・経費削減といった話をし、一般社員クラスの客は生活水準の維持はこれからは無理だという話をしている。
		タクシー運転手	乗客数の減少。乗客も景気は悪いと話している。
	企業関連	住宅関係	建築不振で受注がない。客は買い控えの傾向にあり、買い替えの際は大型店で販売している既製品で間に合わせている。
		非製造業(金融業)	積立保険の解約が増加している。
		非製造業(不動産業)	実体経済の悪化に伴う不動産需要の悪化や賃貸料の値引き要求が見られる。

(4) 県南地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	家計関連 企業関連	洋食食堂	忘年会シーズンにより来客数が増加し、ある程度の活気があるように思われる。	
		製造業（食品）	年末年始を迎えて、売上げが増加している。	
		製造業（食品） 製造業（コンクリート製造業）	3か月前と比べれば、商品が動いている。 官公庁からの発注が増加している。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	前年と比べ、売上額の増加がここ数か月続いている。	
		洋食食堂	ボーナス支給があったことで、予約件数が増加した。	
		タクシー運転手	ボーナス支給があったことや、年末年始の慌しさから売上げは増加する。	
		ゴルフ場	土・日・祝日を中心に客数が増加している。	
		ゴルフ場	この時期忘年会コンペや社内コンペ等の予約が多く入り、天候が崩れない限り多少の景気の良さは見込まれるが、客単価は低迷している。	
		理・美容店	年末を迎えて多少来店客が増加している。ただ、中年層の来店回数が減少しているように思われる。	
		理・美容店	地元と同業者が増加したため、他店との差別化や特色を出した結果、活性化してきている。	
変わらない	家計関連	小売店（各種食料品）	売上げに変化は見られない。	
		タクシー運転手		
		スーパー	客単価に変化がない。	
		農産物直売所	価格の安い品物が多く売れる。	
		都市型ホテル	宿泊料の割引や飲酒運転取り締まり強化のため、宿泊者数は増加しているが、婚礼・宴会部門の客単価は減少しており、総合的には利益に変化がないように思われる。	
	企業関連	農業水産業関係者	販売米の品質の悪かった影響が続いている。	
		製造業（食品）	特に良くなったとも悪くなったとも感じられない。	
		製造業（一般機械器具）	売上げ・利益ともに伸びているものの、先行きは不透明である。	
		非製造業（建設業）	受注が少ないため、受注価格を落としているのが現状である。	
	雇用関連	非製造業（建築設備業）	受注量の低迷が続いている。	
		人材派遣業	派遣社員数の減少は止まったものの、新規受注ができない。また、派遣先企業から派遣料金の値下げを迫られており厳しい状況にある。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	先行きの見通しが立たないため、出費に憶病になっている。	
		スーパー	客数に変化が見られない。	
		スーパー	近隣に大型ショッピングセンターが開店し客数は減少しているが、売上げは前年比横這いで推移している。各部署でアイデアを出し合って工夫しているが、いつまで前年をクリアできるかわからない。	
		衣料品・身の回り品販売店	上半期は洋服を中心に注文があったが、下半期はその反動で売上額の減少がみられる。	
		家電販売店	低額商品が以前のように売れていない。高額商品は昨年に比べ売上げは伸びているが、売上額全体を押し上げるまでには至っていない。また、同等の質の商品であれば、利便性より価格で決める客が多い。	
		自動車販売店	消費者は必要最低限の物しか購入しない。高級車の売れ行きが一段と落ちている気がする。	
		農産物直売所	来客数・売上げが減少しており、また野菜の値段と新鮮さに客の方で敏感になってきている。	
		ドラッグストア	周辺に同業他社が進出し、競争が激しくなっている。	
		ガソリンスタンド	利益が確保できなくなっている。	
		和食食堂	売上げが前年より減少している。	
		観光型ホテル	前年と比べ予約申し込み数の減少や宿泊単価の低下が見られるほか、館内施設の利用度も低下している。	
		旅行代理店	土・日曜日の来客数が減少し、またこの季節に合わせた企画物（スキー旅行等）の売上げが例年と比較して減少している。	
		旅行代理店	旅行の申込み件数が減少し、客単価も低下している。	
		タクシー運転手	忘年会シーズンで客数は増加するはずだが、今年は増加していない。	
		タクシー運転手	真夜中の午前1時から2時頃でも長距離の利用客はほとんどいなくなっている。	
		パチンコ店	客層が変化してきている。	
		悪くなっている	企業関連	非製造業（金融業）
雇用関連	求人広告			企業の求人数が減少している。
家計関連	寿司店			財布のヒモが緩む時期なのに来客数の減少が続いている。12月は予約客は入っているものの、フリー客が少ない。
企業関連	タクシー運転手		夜間営業の回数が減少している。	
	建築設計事務所		受注量の減少。	
	製造業（食品）		売上げの不振。	
	製造業（一般印刷業）		価格の値下げ競争の激化や用紙の値上げがみられる。	
製造業（窯業・土石製品）	消費意欲が感じられない。			
非製造業（建設業）	連日営業活動をしているが、新規物件が見当たらず、リフォームで当座をしのぐケースが多い。			
非製造業（建設業）	仕事の受注がない。下請け企業にも仕事がない。			

(5) 県西地域

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	雇用関連	公共職業安定所	新規求人数が増加に転じてきている。

回答区分	分野	業種・職種	理由	
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	売上額が昨年と比べて増加している。	
		都市型ホテル	忘年会シーズンに入り、予約件数が増加し、また道路交通法の飲酒運転罰則強化の実施に伴い、飲酒後の宿泊としての利用客が増加している。	
		旅行代理店	行楽シーズンや社員旅行の時期であったので、季節的に売上げが増加した。個人客の売上げはよくない。	
		タクシー運転手	年末時期のため、忘年会等の会合が実施されるので売上げが多少増加している。	
		タクシー運転手	年末になり、忘年会等で利用客が増加している。	
	企業関連	製造業（食品）	年末向け贈答用商品の売上げが増加している。	
		製造業（電気機械器具）	年末の影響もあり、受注量がコンスタントにある。	
		製造業（輸送用機械）	一部のメーカーからの受注が増加している。	
	雇用関連	非製造業（倉庫業）	一般製造業の動きは悪いが、食品関係は年末にかけ、やや売上げが増加している。	
		人材派遣業	一部企業から派遣依頼が増加している。	
変わらない	家計関連	ドライブイン	客数や仕事の量は現状維持の状態である。	
		クリーニング店		
		衣料品専門店	売上げの推移やクレジットカード利用率等からみても、消費者の購買意欲は上昇していない。	
		ガソリンスタンド	ガソリンの伸びは堅調であり、また産業用軽油は前年をやや下回る程度である。	
		洋食食堂	道路交通法の改正に伴う飲酒運転罰則強化が実施されてから、売上げ減少が続いている。	
		ゴルフ場	客数は増加しているが、客単価は減少している。	
		レジャー施設	イベント参加者や来客数が減少傾向にある。	
		理・美容店	大幅な売上げの減少はないが、客の来店周期が長くなっている。	
	企業関連	農林水産業関係者	生産品の販売額がやや上昇しているが、生産費も増加している。	
		製造業（印刷業）	前年比で若干売上げが減少している。	
		製造業（化学工業）	受注状況や顧客状況に大きな変化はない。	
		製造業（金属製品）	受注はあるが、内容の途中変更が多い。結果として納期が送れ、資金の回転率が悪い。	
		非製造業（広告代理業）	費用対効果を重要視する顧客が増えてきた。従って大物件は動きにくく、小物件ばかりが出る。業務効率を考えると売上げ増加に結びつかないし、あまり利益にもならない。	
	雇用関連	求人広告	季節的な短期の求人募集はあるが、長期雇用・正社員の求人募集は依然として少ない。	
		学校就業関係者	3か月前と比べても求人増加が見られない。	
		雇用相談員	大型店が歳末商戦で一時的に活気があるが、大部分はこれまでと変わっていない。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	客単価の低下や買い控えが見られる。	
		スーパー	客は必要な物以外は購入せず、特売品であっても決してまとめ買いしない。	
		スーパー	客は商品の購入にあたって、利用店舗を業態（スーパー、ホームセンター、ドラッグストア等）ごとくにうまく使い分けている。また余分な買い物はますますなくなっている。	
		自動車販売店	多くの客が高級車の購入を控え、価格にシビアである。	
		居酒屋	売上げの減少。	
		都市型ホテル	客単価が低下してきている。客から値引きを要求されるようになった。	
		ドライブイン	客の出入りは多いが、客単価が低下しており、売上げは減少している。	
		ゴルフ場	プレー代の値引交渉件数が増加している。売店の客単価が低下している。来期の会員申込がボーナス支給時期を過ぎててもあまり伸びない。	
		レジャー施設	個人消費の落ち込みが目立つ。	
		理・美容店	例年に比べ寒さが厳しく、客の来店頻度が落ちている。	
	企業関連	製造業（木材業）	年末を迎えて、工事代金の支払決済ができなかったり、日延べする取引先が増加している。	
		非製造業（建設業）	仕事量が減少しており、また受注額も下落してきている。	
		非製造業（金融業）	取引先全業種で売上げが低迷し、資金回収に懸念を持っている。	
		非製造業（不動産業）	賃貸物件では価格が安い物件しか動いていない。また賃貸料の滞納者が増加している。	
		非製造業（コンサルタント業）	特に建設関係の受注単価の値下げが著しい。	
	悪くなっている	家計関連	寿司店	道路交通法の改正に伴う飲酒運転の罰則強化の施行により、酒類の注文が減少し客単価が低下している。
			タクシー運転手	飲食店利用客の減少に伴いタクシー利用者が減っている。
建築設計事務所			仕事量が減少している。関連業者から廃業の相談を受けた。	
企業関連		製造業（一般機械工業）	仕事の受注がなくなった。受注があったとしても、納期が短いなど厳しい条件である。	

2 景気の先行き判断理由

(1) 県北地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	農林水産業関係者	サバ・イワシ漁に復活の動きがある。	
やや良くなっている	家計関連	タクシー運転手	これから忙しくなるのではないかとという乗客の話を聞く。	
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	景気の良くなる要因が見当たらない。	
		ドライブイン		
		ゴルフ場		
		パチンコ店		
		農産物直売所	冬場の客数は少ないので、売上げは伸びない。	
		卸売業	新商品開発の動きがない。	
		レジャー施設	パート募集をすると、常に多くの人数・幅広い年齢層から申込みがある。	
	企業関連	理・美容店	価格の安い店舗が出てきている。	
		製造業（一般機械器具）	短期間で景気に大きな変動はない。	
		非製造業（建設業）		
		製造業（電気機械器具）		先の見通しが立たない。
		製造業（電気機械器具）		輸出の拡大は望めず、企業の設備投資や個人消費も先行き不透明である。
		製造業（電気機械器具）		年末年始の特需は期待できるが、先行きは不透明である。
		非製造業（建設業）		入札工事はあるが、業者数が多いため、満足に受注することができない状況である。
非製造業（情報処理サービス）	顧客先の受注量に変化が見られない。			
雇用関連	人材派遣業	既契約者の契約期間の延長は見込めるが、新規需要は見込めない。		
	人材派遣業	取引先企業からは雇用数は現状維持という話が多い。		
	公共職業安定所	月間有効求人数は16か月ぶりに増加したものの、企業はコスト削減のため正規雇用を減らし、パートや外部への委託といった非正規雇用へのシフトを強めてきており、雇用環境は依然厳しい。		
やや悪くなっている	家計関連	小売店（酒類）	酒類の消費人口の減少があり、特に高齢者の消費量が少ない。	
		小売店（靴製品）	景気に関するいい話題がない。	
		居酒屋	客単価の引き下げによって客数を維持する傾向は今後も続くと思われるが、それでも客数は減少するのではないかと懸念している。	
		スナック	これから寒い時期なので客数は減少する。	
		割烹料理店	自分にとって大切なものには金を惜しみなく使い、余計なものには金を使わなくなってきている。	
		観光型ホテル	経費の増加により、収益率の低下が見込まれる。	
		旅行代理店	冬のボーナスが大幅減少又は未支給等の話を聞く。このような状況の中で消費が伸びるとは思えない。	
		タクシー運転手	年明けは今より景気は悪くなると話す乗客が多い。	
		タクシー運転手	飲食店関係やビジネスマンの客数が減っていくと思う。	
		レジャー施設	入場者数と客単価の減少が続く。	
	理・美容店	年末年始は期待できるが、その後は反動で売上げは減少するように思われる。		
	企業関連	製造業（電気機械器具）	受注量の減少が続く。	
		製造業（輸送用機械器具）		
		製造業（食品）		販売価格の低下がさらに続くと思われる。また購買意欲の冷え込みの影響も受ける。
		製造業（電気機械器具）		取引先の在庫調整により売上げ減少が見込まれる。
		製造業（輸送用機械器具）		取引先金融機関の貸付金が減少気味である。（貸し渋りではない） 原材料取引業者の出庫数量が減少気味である。
		非製造業（金融業）		3か月間では事態の好転はない。
	雇用関連	求人広告	求人企業の雇用形態で正社員募集が少ない。	
		求人広告	人口が減少してきており、地域の活性化を妨げていると思う。	
悪くなっている	家計関連	商店街代表者	景気回復の判断材料がまったくない。	
		都市型ホテル	低価格商品しか売れないのに加えて、以前より嗜好品が売れないため、利益率が低下している。	
		スーパー	必要な物しか購入しない傾向はまだ強い。若い年代でもシビアになっている。	
		スーパー	高額商品の売行きが良くない。	
		家電販売店	来年はさらに景気が悪くなるだろうという来店者の話を聞く。	
		ガソリンスタンド	客は必要な物だけを購入していく。	
		小売店（土産物）	現在、毎月の売上げは目標未達成の状況にあり、今後もさらに厳しい状況となる。	
		観光型ホテル	これまで以上に低料金チェーン店進出の可能性がある。	
	企業関連	クリーニング店	民有林の伐採が進まず、業務量は減少すると思われる。	
		農林水産業関係者	3か月先に仕事の受注があるかどうか不透明である。	
	製造業（一般機械器具）	先の見通しが立たない。		
	非製造業（不動産業）			

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	ドライブイン	初詣や2月からの観梅等で来県者の増加が見込まれる。
		レジャー施設	来年からの船舶保管の引合いが目立つようになった。
	企業関連	レジャー施設	2月から3月の観梅時期等により来客数や土産品購入数の増加が見込まれる。
		製造業(出版・印刷業)	年度末が近づき、官公庁・民間ともに発注が増え多少活気を帯びてくると思われる。しかしながら、業者間の値引競争等も激しく、以前のような活気は期待できない。
		製造業(一般機械器具)	環境の規制強化が年々厳しくなるなかで、関連装置の引合い件数の増加が見込まれる。
非製造業(建設業)	景気は底をついたようで少しずつ上向いている。金融機関の対応も以前に比べると厳しさがなくなってきた。		
変わらない	家計関連	スーパー	景気が良くなる見通しが立たない。
		レストラン	
		観光型ホテル	
		旅行代理店	
		理・美容店	
		百貨店	消費マインドの落ち込みは当分変わりそうにない。
		スーパー	景気を良くする要因は何も見当たらず、収入減の影響もあり買い控えが強まると見られる。
		ショッピングセンター	低価格商品や実用品しか売れず、売上げ増につながらない。
		家電販売店	画期的な新商品等の発売がないため、大幅に変わることはない。
		農産物直売所	余分に購入しない、大量に購入しないという消費パターンが定着している。
	割烹料理店	経費節減を実施しても、現状維持の数字がやっとといったところである。	
	都市型ホテル	現在の予約状況から判断すると、短期間での景気の好転は難しいと思う。	
	タクシー運転手	年明けは年末の反動で客数は減少する。	
	ドライブイン	一般客の来店数は減少しているが、団体客数はさほど減少していない。	
	企業関連	農林水産業関係者	短期間で景気が良くなるとは思えない。先行きの見通しが立たない。
		製造業(食品)	
		製造業(金属製品)	
非製造業(不動産業)			
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	先行きの見通しが立たない。
		自動車販売店	先行きの見通しが立たない。
		都市型ホテル	年度末は来客数・売上の減少が予想される。
		理・美容店	売上確保のために利益を度外視した商売をすることが増加している。
		商店街代表者	客側の収入減のため、ガソリンスタンドの販売力は低下する。
		ガソリンスタンド	客側の収入減のため、ガソリンスタンドの販売力は低下する。
		タクシー運転手	年明けは年末の反動で客数は減少する。
		ゴルフ場	低料金化が進み、収益率の悪化が予想される。
	パチンコ店	新機種が登場する可能性が少ない。	
	建築設計事務所	来年度の工事を依頼している客の実施見通しが立たない。	
	企業関連	製造業(一般機械器具)	生産量が減少している上に、納期の短縮や価格の値引の厳しさが増していく。
		非製造業(輸送業)	荷主の動向が不透明になっている。不採算部門からの撤退や外資への移管等リストラが進むようである。
		非製造業(金融業)	良い材料が見当たらない。
非製造業(コンサルタント業)		世の中の価値観が変わり、物をどんどん消費するという考えがなくなった。	
雇用関連		求人広告	受注量の減少が見込まれる。
悪くなっている	家計関連	公共職業安定所	地元企業を対象にした調査からも先行き不透明感が強く感じられる。
		タクシー運転手	道路交通法改正に伴う飲酒運転の罰則強化の実施により飲食店の利用客が減少しているため、タクシーの利用者が激減している。
	企業関連	観光名所	シーズンオフとなっており、回復は望めない。
		住宅販売会社	不況の影響で、客は住宅購入にさらに慎重になっている。
非製造業(広告代理業)	各企業の決算期を向かえ、企業の来年度予算の再編成等から受注の減少が予想される。		

(3) 鹿行地域

(- : 回答が存在しない)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	交通アクセスの向上に伴う観光客の増加などワールドカップの開催効果が徐々に表れる。
		サービス業	年度末時期の受注増加に期待する。
	企業関連	製造業(化学工業)	海外情勢の不安定さが若干薄れてきている。
変わらない	家計関連	製造業(金属製品)	業務量が増え、残業時間が増加している。また中間決算の経常利益が黒字となった。
		スーパー	経済環境の悪化や将来の不安のため個人消費は伸びない。
		都市型ホテル	
		コンビニエンスストア	
理・美容店	景気は当分この状態が続く。		
住宅販売会社			

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	コンビニエンスストア	客は商品の購入に意外とシビアになっている。
		観光名所職員	例年、冬期の来館者数は少ない。
		レジャー施設	年度末までは売上げは微増傾向と思われる。来年度が正念場である。
		クリーニング店	1～3月はクリーニングの需要があまりない時期である。
	企業関連	製造業（印刷業）	短期間で景気が改善される要因が見当たらない。
		製造業（窯業・土石製品）	大手企業の合併や業務提携といったこれまでありえなかったことが起こっており、この先何が起こっても不思議ではない。
		製造業（電気機械器具）	
		非製造業（住宅設備施工業）	物件の見積件数が増加しない。
	雇用関連	人材派遣業	受注価格の下落が続き底が見えない状況であり、通常価格の半値を要求する企業もある。
		民間職業紹介業	景気の先行きの不透明感は払拭できず、企業の求人数が増加するとは思えない。
		公共職業安定所	企業の余剰人員対策はおおむね一段落した感があるが、人件費を含めたギリギリのコスト削減策を実施している。
		学校就業関係者	景気が良くなる話・雰囲気がない。
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	年末の反動で景気が悪くなると思う。
		スーパー	野菜・果実類は価格高騰のため売れ行きが悪い。客は必要な物だけを購入している。
		自動車販売店	車の買替えはなるべく行わず、できる限り修理して使用する等経費がかからないように工夫しているという客の話を聞く。
		書店	中古本・CD・ゲーム機を販売する店舗が出店しており、競争が激しくなる。
		観光型ホテル	3月頃の予約状況は良くない。
	企業関連	製造業（窯業・土石製品）	消費の冷え込みもあり、景気の回復は見込めない。
		非製造業（金融業）	
		非製造業（金融業）	高級魚の価格低迷や加工水産物の売上げが減少する。
		農林水産業関係者	
		製造業（食品）	
	非製造業（輸送業）	雇用や所得の厳しい状況が継続する。資金を借入返済や負債圧縮に回し、設備投資を抑制している。	
	雇用関連	雇用相談員	年度末の決算内容次第では、事業所の閉鎖がますます増加すると思われる。
悪くなっている	家計関連	衣料品販売店	景気が良くなるきざしが見えない。
		クリーニング店	
		住宅関係	来年はさらに厳しい環境となることが見込まれる。
		家電販売店	
		タクシー運転手	
	タクシー運転手	12月は忘年会のシーズンのため例年は一番忙しい時期だが、今年は忙しくない。年が明ければ悪くなる一方である。	
	企業関連	農林水産業関係者	正月以降は需要が伸びない。
非製造業（不動産業）	ユーザーサイドの収入減による住宅需要の低迷が見込まれる。		

（４） 県南地域

（-：回答が存在しない）

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	-	-	-
やや良くなっている	家計関連	理・美容店	大きな出費とまではいかないが、自分自身を磨くため、それなりの出費をする客はますます増加すると思う。
	企業関連	製造業（コンクリート製造業）	売上額及び発注量の増加が見込まれる。
変わらない	家計関連	和食食堂	景気が上向きになる要素がない。このまま推移するものと思われる。
		観光型ホテル	
		ゴルフ場	
		理・美容店	
		商店街代表者	先行きの見通しが立たないため。
		スーパー	今後の業績を占う上で、年末商戦は大切。成功すれば3か月先の見通しもある程度期待できる。
		自動車販売店	車検を受ける客や販売台数は増加すると思うが、増益となるかどうかは不明である。
		小売店（各種食料品）	客の消費意欲が低下している。
		洋食食堂	まだまだ不景気が続くと言っている客が多い。
		旅行代理店	世界情勢の変化によっては海外旅行の申込みに悪影響を及ぼすことが予想される。例年は年に数回旅行していたが、最近はやや行けなくなったという客の話を多く聞く。
	タクシー運転手	企業の業績不振や飲食店の客足が伸びないことから、乗客数の増加は望めない。	
	パチンコ店	エリア人口数が減少しつつある。	
	企業関連	製造業（食品）	景気が良くなりそうに見えて、株価の低迷・企業のリストラ等不安材料も多い。
		製造業（一般機械器具）	所得の増加がみられず、景気回復のきざしが見られない。
		非製造業（建設業）	年度末で多少の受注が予想されるが、民間工事の伸びは悪い。
		非製造業（建設業）	受注量や売上額からみても、今の状況は変わらない。
		非製造業（輸送業）	先行き懸念をしている荷主が多い。
雇用関連	人材派遣業	今後短期間の派遣が増加する等明るいきざしは若干あるものの、さらに派遣先からの派遣料金の値下げ要求が予想され、決して予断は許されない。	
	学校就業関係者	求人先企業の状況からすると、急速な景気回復の可能性を見出すことはできないと思われる。	

回答区分	分野	業種・職種	理由	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	客単価の低下が見られる。	
		タクシー運転手	飲食店利用客をはじめとして、今後タクシー利用客は減少していく。	
		農産物直売所	直売所の運営がマンネリ化しており、新しい方式を取り入れていかないと現状がきびしい。	
		家電販売店	先行きが不安のため、消費は低迷し経済活動は鈍くなる。	
		農産物直売所		
		ゴルフ場		
		旅行代理店	可能な限りの販売促進活動を行っているが客の反応は弱い。	
		都市型ホテル	年末年始以降は会合数が減少し、客数・売上げともに減少すると思われる。	
	タクシー運転手	年末年始の反動で、年が明けると売上げは減少すると思われる。		
	企業関連	製造業（食品）	道路交通法の改正に伴う飲酒運転の罰則強化の影響で、年末年始の需要が伸びないことが懸念される。	
非製造業（金融業）		不動産の流動化はストップし、消費抑制はさらに進行する。		
悪くなっている	家計関連	衣料品・身の回り品販売店	冬物販売のピークが1月頃までで、その後は売上げの減少が見込まれる。	
		洋食食堂	地元企業の撤退による昼間人口の減少はかなりの痛手である。	
		タクシー運転手	経費削減のためか、企業のタクシーチケット利用頻度が減少している。	
	企業関連	製造業（食品）	先行きの不安から、個人消費の低迷が続く。	
		非製造業（建設業）	製造業（食品）	年末年始の反動で、売上げは減少する。
		製造業（食品）	前年同月と比べると売上げが減少しており、これから良くなるという要素は何もない。	
		製造業（一般印刷業）	金融機関の貸し渋りが見られる。	
		非製造業（建設業）	昨年も仕事がなかったので今年はもっと少なくなるのではないかという声が聞かれる。	

(5) 県西地域

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	企業関連	製造業（食品）	新商品開発を積極的に取り組んでいる成果が順調に表れている。	
	雇用関連	公共職業安定所	先行きに明るい見通しを立てている企業が増えている。	
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	良い商品の開発・販売を続けることにより、売上げは増加する。	
		ドライブイン	観光客の増加に期待する。	
変わらない	雇用関連	雇用相談員	業種によっては多少売上げが増加すると思う。	
		家計関連	商店街代表者	消費が拡大しないと景気は上昇しない。
			レジャー施設	景気が良くなる材料や理由が見当たらない。
			衣料品専門店	
			洋食食堂	
			レジャー施設	
			理・美容店	
		都市型ホテル	卒業シーズンや人事異動の時期なので、それに伴う会合の実施に期待する。	
		タクシー運転手	年末年始の反動で、2月から3月期は良くはならない。	
		ドライブイン	設備投資等を行おうにも売上げ増加が見込めないため、現状維持でいいという考え方になってしまふ。	
	理・美容店	低料金の店舗が増加している。先行きが見えない状態である。		
	クリーニング店	陽気が暖かくなると、客数は増加しない。		
	企業関連	農林水産業関係者	現在の景気状況には多くを望めない。	
		農林水産業関係者	デフレ傾向が見られる。外国産を安値で販売している店舗が多く、国内の生産業者が打撃を受けている。	
		製造業（化学工業）	受注状況や顧客状況から判断して、先行きに大きな変化はないと考える。	
		製造業（電気機械器具）	年末の一時的な動きで受注量が増加するが、その後は元に戻っていると思われる。	
		製造業（輸送用機械）	自動車メーカーの生産計画は横這いと思われる。	
非製造業（広告代理業）		良い企業・悪い企業ともに数字的にあまり変化はないと思う。		
雇用関連		学校就業関係者	1月から2月は企業に求人への動きはなく、状況の好転は見られない。	
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表	個人消費の低迷により、景気が良くなる見通しが無い。	
		スーパー	買上数の減少が見られる。	
		ドラッグストア		
		ガソリンスタンド		
		和食食堂	昨年6月より飲酒運転に対する罰則強化の実施に伴い、酒類の注文が非常に減少し、客単価が低下している。今後具体的な対策を考えていかなければならない。	
		タクシー運転手	12月や1月と比較すると景気は悪くなっていると思う。	
		ゴルフ場	冬期はシーズンオフとなるため、売上げは減少する。	
	企業関連	製造業（印刷業）	海外製品（中国製・東南アジア製）が国内に入ってきている。また企業間格差が拡大する。	
		製造業（金属製品）	金融機関の対応が非常に厳しくなっている。	
		製造業（一般機械工業）	取引先が廃業している。	
		非製造業（倉庫業）	年度末は売上げが減少し、来年度はさらに景気が悪くなると思う。	
		非製造業（不動産業）	将来の不安から消費意欲が減退しているように感じる。	
		非製造業（コンサルタント業）	受注単価の値下げ傾向は今後も続きそうである。	
		雇用関連	人材派遣業	建設業関係を中心に年明け以降派遣依頼が減少する。
求人広告	3か月後に今より景気が上向いているとは思えない。			

回答区分	分野	業種・職種	理由
悪くなっている	家計関連	旅行代理店	冬期は旅行がシーズンオフを迎える。また、提携していた結婚式場が倒産したので、関連客の減少も見込まれる。
		建築設計事務所	新築物件の計画数が減少している。雇用不安の話をよく耳にする。
		寿司店	景気に対する明るい展望や良くなる要素がない。
		居酒屋	
		タクシー運転手	
	企業関連	製造業（木材業）	新規の物件が少ない。物件があっても競争が激しいため、低価格で受注せざるを得ず、利益はほとんど望めない。
		非製造業（金融業）	1月から3月にかけては例年業況が悪い。

3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	イベントを実施すると、お金のかからないものに人が集中する傾向がますます強くなった。
	スーパー	パートの募集人数が3か月前と比べて2倍近くになっている。以前は職種を選んでいた人が多かったが、今は雇用されれば職種はこだわらないという声が多い。35から45歳の年代の募集数が増加している。
	コンビニエンスストア	ボーナス支給後の客の動きは良い。新鮮であれば、高価な弁当やおにぎりでも売れる。
	自動車販売店	どの業種も状況は悪いと聞いている。
	農産物直売所	健康志向のためか、野菜や健康食品に関心があるように見える。特に珍しい野菜（ヤーコン・アピオス等）に人気がある。
	ガソリンスタンド	経営者が絶望的になっている。
	小売店（酒類）	翌年3月に地元で大きな祭りが開催予定で盛り上がりが見られる。これをうまく利用できれば活性化につながるのではないかと。
	小売店（土産物）	旅行ツアーで店を利用する際、添乗員やバス運転手に対するチップの催促が今までより厳しくなった。
	小売店（靴製品）	客は本当に必要な品物であれば高価でも購入するが、必要なければ廉価でも購入しない。
	卸売業	
	レストラン	アイデアと努力で街を活性化させるしかないように思う。
	居酒屋	昨年6月から実施された飲酒・酒気帯び運転の罰則強化に伴い来客数が急減し、その影響が続いている。
	スナック	景気良く飲む客はいない。
	食堂	周辺に多くの大手チェーン店ができたが、閉店している店舗も多い。また、個人店舗は後継者不足に悩んでいる。
	割烹料理店	客は今までは金を何気なく使っていたが、今は慎重になっている。
	都市型ホテル	自分自身の趣味や価値のある物に対しては消費をする。本物志向の傾向にある。
	観光型ホテル	一度利用しなくなった団体・企業の利用復活はないと思う。従来の考え方を捨て、まったく新しい発想の元に、設備投資や企画を行っていく必要がある。
	観光型ホテル	各企業とも業務縮小・撤退・合併といった方法で存続を図ろうとしており、厳しい状況が窺える。
	旅行代理店	国際航空券が往復で2万円程度といった格安ものまで出てきた。値下げ競争が激化し中小の旅行業者は苦戦している。
	タクシー運転手	ボーナス時期であるが、支給額は下がったという話ばかりである。
ゴルフ場	倒産した周辺のゴルフ場が安い価格で営業を続けているため、客を取られてしまい苦戦している。	
パチンコ店	金回りのよい客が現れている。	
レジャー施設	ボーナス支給の集中日といわれる日のスーパー・食料品売場は夕方に品物がなくなっていた。通常ボーナス支給日といえば外食が多いものだが、そのような日まで節約して家で済ませようという厳しい家庭状況の一端が伺える。	
理・美容店	今の時代は安ければなんでも買うとは一概に言えない。安全であること、身元がしっかりしたもの（会社名、生産者等）、内容がしっかりしていることが必要である。	
企業関連	農林水産業関係者	雇って欲しいという申込みはあるが、仕事がないため断らざるを得ない状態である。
	農林水産業関係者	高級魚（ヒラメ、アンコウ、カレイ等）の取引が低調である。
	製造業（食品）	店の販売傾向としては、廉価ものと同額ものを売るといった二極化が見られる。また客の購入傾向としては、衝動買いが減っている。
	製造業（一般機械器具）	価格の安い物しか売れない。
	製造業（電気機械器具）	年末に取引先から贈られるカレンダーの数が減少している。
	製造業（電気機械器具）	経営者は受注量の減少により大変苦慮しているとの話である。
	製造業（電気機械器具）	社会全般の不景気に対する漠然とした不安感はあるが、業務量は堅調であるためそれなりに活気が見られる。
	非製造業（建設業）	中心街では大型店舗の進出により人が集まり、周辺の各業種（住宅関係、小規模店舗等）にも好影響が出始めている。
	非製造業（金融業）	地元商店街全体、特に物販店・飲食店の年末の売上げが例年に比べて伸びていない。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	100円ショップや格安の通信販売等によってますます商品価格が下落しており、不必要な値下げが当然になってきている。従って、販売価格に見合った商品までが値下げを強いられている。
	百貨店	割安感のあるセール時の売上げは良い。
	スーパー	特売商品の売れ行きが過大になっている一方で、定番商品の売れ行きは悪い。
	スーパー	新規出店・改装等があり、人口比でスーパーの数が飽和状態である。各店舗とも顧客づくりのためにいろいろ工夫をしている。
	自動車販売店	自動車の代替年数が以前にも増して長くなっている。
	ガソリンスタンド	ガソリンの販売量が減少したのが気がかりである。
	割烹料理店	若年層の客は悲観的な所が少ないので、少々嬉しくなる。
	都市型ホテル	年末年始にホテルを何らかの形で利用する客は例年通り多く見受けられるが、イベントの実施時期に集中する傾向がある。
	観光型ホテル	営業状況では団体客の減少、客単価の低下がみられ、雇用関係ではパートを含め当施設への就職希望者が多い。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	都市型ホテル	忘年会に派手さが見られなくなったり、二次会を行う様子もあまりないように感じる。
	旅行代理店	総合店舗から専門店舗化している等、旅行業界は大きな再編の時代にある。
	タクシー運転手	もし増税が現実となったら、さらに客足は遠のくと思う。
	タクシー運転手	不況の影響で会合の回数が減少しているようである。
	ドライブイン	低価格の店舗が増加しているためか、値段が高いという客の声をたびたび耳にするようになった。また当店舗で短期アルバイトを募集したところ、例年と比べて30～50歳台の応募数が増加している。
	ドライブイン	道路交通法改正に伴う飲酒運転の罰則強化の実施により宴会が実施されなくなっているという声が多く聞かれる。
	ゴルフ場	ゴルフ場周辺の飲食店で、今まで来客があった時間帯に客が入らなくなっている。
	レジャー施設	賃貸料の未払者への連絡がつきにくくなっている。
	レジャー施設	土産品は菓子類が多く低廉なものを選ぶ傾向が続いている。
	理・美容店	経済的に余裕のある人となない人の差が歴然と感じられる。
	理・美容店	家賃や人件費が払えないため、閉鎖する店舗が増加している。
	住宅販売会社	金融機関に借入れを申込みと、融資条件が厳しく希望金額を借入れできない客が非常に多い。
	建築設計事務所	例年になく景気が悪いという経営者の話や、住宅ローン返済が滞っているという金融機関の話聞く。
企業関連	製造業(食品)	観梅シーズンの客数増加に期待する。
	製造業(出版・印刷業)	入札の落札価格が年々低下している。生産性が上昇しているとは思えないが、価格競争が激しくなってきた。
	製造業(一般機械器具)	負債額が少額の倒産が増えてきたような気がする。
	非製造業(建設業)	建設業について言えば、公共工事主体の企業は危機意識に欠けている。環境の変化に対応することが必要である。
	非製造業(輸送業)	デフレ傾向により価格の下落が止まりそうにない。そのしわ寄せは物流業者にはね返ってくる。
	非製造業(コンサルタント業)	本当に必要で、価値があり、質の高い物が売れる時代である。
雇用関連	公共職業安定所	7月から9月の中途採用者全体の平均賃金は前年同期比で上昇しているものの、企業の人件費抑制の影響が、男性が20歳から49歳、女性では25歳から39歳の年齢層で賃金が減少している。
	学校就業担当者	学生の生活が苦しそうだ。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	例年の師走に見られる街中の賑わいが今年は感じられない。
	スーパー	客はその日に必要なものだけを購入し、余分なものはさらに購入しなくなった。大量購入もほとんど見られない。
	スーパー	当店舗で仕入れていた飲食店では、大手飲食店チェーン店の低価格攻勢に負けて廃業が相次いでいる。外食産業も資本の集中化が進行している。
	コンビニエンスストア	良い商品は価格に関係なく売れる。また、高齢層の購買意欲が向上している。
	コンビニエンスストア	周辺の飲食店や商店が閉店となり、その後の借り手もなく空いたままである。
	衣料品販売店	客は本当に必要な物を必要なだけ購入している。
	自動車販売店	不景気のためか、ここ数年、株式投資・不動産購入・先物取引といった勧誘が非常に増加している。
	書店	大型家電販売店で書籍・CD等の販売をするようになってきている。
	タクシー運転手	店舗の閉鎖がいくつも出てきている。地元全体の活気がない。
	タクシー運転手	自動車の保有率が高まり、タクシーの利用客は減少している。飲食店の客も少ない。
	タクシー運転手	小売店の売上げが減少しているという話を聞いた。
	テーマパーク職員	周辺の商店街は空家が多く見られる。ショッピングセンターの中に入ってしまふ店舗が多くなっている。
	レジャー施設	生活水準が良いところと悪いところの格差が顕著である。
	住宅関係	大型店に客が集中し、従来の店舗には客が集まらない。
	サービス業	人材派遣会社からのPRが多い。
企業関連	農林水産業関係者	無登録農業問題で収入減が見込まれる。また農業者の高齢化と廃業者の増加も見られる。
	農林水産業関係者	取引先でカレンダー・手帳の贈呈や年賀状送付の廃止が見られる。
	製造業(窯業・土石製品)	地元大型店舗で営業時間を延長したところがある。(雇用の場の拡大、個人消費に多少の影響)
	製造業(電気機械器具)	昨年は人気のあった小売店舗が最近はそのような様子もないように、人気の浮き沈みが激しい。
	非製造業(輸送業)	景気回復のためには個人消費の動向が重要であるが、消費者は自己防衛のため本当に必要な物しか購入していない。
	非製造業(金融業)	現在の土地取引は公示価格・基準地価ではなく、競売最低価格を参考にして決められており、土地評価はますます下落していくと思われる。
	非製造業(金融業)	老舗に経営危機が出始めている。
	非製造業(不動産業)	住宅関係用地は多少の動きがあるが、事業用地の動きはない。
雇用関連	人材派遣業	暗い話ばかりで、先の見通しについては悲観的な見方をする所ばかりである。
	民間職業紹介業	若年層の求職者に雇用条件で高望みする傾向が著しいと感じる。
	公共職業安定所	人件費の安い海外に生産拠点を移して収益を上げるものの、国内の失業者は増加するという図式にならないような意識・構造改革が必要である。
	雇用相談員	若年層の雇用定着率が低い。学校教育の根本的な見直しや企業側の採用方法の再検討が必要である。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	スーパー	客が商品価格にシビアになっており、特に価格の表示ミスやレジの打ち間違いに対するクレームが増加している。
	スーパー	BSE問題の影響で低迷していた食肉の売上げが昨年と比べて好調である。
	スーパー	従業員の募集をすると、求人1名に20名ほどの問合せがある。勤務時間が短時間(4時間ほど)の募集でも30,40歳代男性からの問合せが目立ってきた。
	衣料品・身の回り品販売店	大規模店舗が出店するため、地元の販売店の売上げは減少すると思われる。
	家電販売店	プラズマテレビやハイビジョンテレビ等自己投資感のある高額商品が売れている。また購入客の半数以上は現金払いである。
	農産物直売所	スーパー等小売業やパチンコ店の新聞広告が多くなった。
	ガソリンスタンド	セルフサービスの店舗が増加しているのが大きな問題である。
	洋食食堂	人々は景気が悪くても、やりくりできる範囲で生活レベルを維持している。
	和食食堂	景気の不透明感からか、外食の回数が減少している感じがする。
	観光型ホテル	地元を訪れる観光客はこれまで以上に節約していると思う。
	旅行代理店	地元の大型店舗の来客数が減少している。新設店も開店当初は賑わうが長続きしない。
	旅行代理店	同業者の廃業や店舗の廃止があった。
	タクシー運転手	夜の9時から11時頃の駅の構内は送迎用のマイカーが多い。
	タクシー運転手	長距離の利用客が減少している。
	タクシー運転手	街中で飲食店やガソリンスタンドの閉店や休業が多く見受けられる。
	タクシー運転手	タクシーを利用していた人が地元の循環バスへ利用替えしている。
	理・美容店	近所の商店街で年末セールを実施したが、昨年に比べ来客数・売上げともに減少したようである。
	理・美容店	個性や特色を出している店舗は、たとえ立地条件が悪くても客は途絶えない。
	建築設計事務所	大規模の量販店、スーパーが建設中である。
	企業関連	製造業(食品)
製造業(食品)		コストダウンの一環で、各取引先に対し価格の改定を依頼している。
製造業(窯業・土石製品)		各企業が人件費の圧縮に取り組んでおり、ますます雇用や所得状況に悪影響を及ぼしている。
非製造業(建設業)		業者間競争が激しく原価割れの発注をせざるを得ず、利益を出すどころか赤字となってしまう。
非製造業(建設業)		貸倒れ倒産を避けるため、工事代金の回収を最優先する受注を行っている。
非製造業(輸送業)		各企業ともに物流経費の削減傾向が続いている。
非製造業(金融業)		事業継続の意欲が低下しているため、廃業が増加している。小規模店舗は淘汰され、今は大規模店舗同士の競争が激化している。
雇用関連	人材派遣業	派遣料金を安くしないと受注できないため、派遣者の給与を下げざるを得ない状況になっている。
	求人広告	今後、店舗の新規開店が多くなると思う。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	商店街代表者	企業・店舗では売上げの減少が、パート労働者の出勤を抑制させ、結果としてパート労働者の収入減につながっている。
	商店街代表者	客は安い商品をしかも必要最低限しか購入しなくなっている。その一方で、自分の子供に対してはそれなりの費用(教育費・衣服費等)をかけているようである。
	スーパー	街を歩いていると失業者が増加しているのがわかる。
	コンビニエンスストア	消費者は物の購入に慎重になっているが、本当にほしい物・価値のあるものは確実に購入する。
	衣料品専門店	金融機関からの融資は厳しいうえに、貸出金利の上昇もあり、企業としては厳しい状況である。
	ガソリンスタンド	安値でガソリンを販売するスタンドや一般の小売店舗の灯油販売コーナーに多くの客が集まっており、消費者の安値志向は変わらない。
	洋食食堂	セットメニューよりも価格の安い単品メニューの売上げが増加している。また、夜間の来客数が減少し、酒類の注文が減少した。
	寿司店	一人前を注文して、それを二人で食べている。(特に高齢者)
	和食食堂	店舗ごとの業績の良し悪しがはっきりわかるようになってきた。また店舗の新規開店が少なくなってきた。
	居酒屋	最近最寄りの国道のトラックの走行数が増加しているように思う。景気上昇の一端かどうかは不明である。
	都市型ホテル	1,2年前は外人客が多かったが、最近は減少気味である。また週末はビジネスマンの宿泊が減少している。
	旅行代理店	人員削減の影響から労働負担が増大し、休日を取りにくいという客の話を耳にする。時間に余裕のないことも景気に影響していると思う。
	タクシー運転手	道路交通法の改正に伴う飲酒運転罰則強化の実施により、多少夜の客数が増加すると思われたが逆に減少している。
	タクシー運転手	どの店舗でも必死に客の勧誘をしている。
	タクシー運転手	12月から1月にかけてはボーナス支給があったことや、御歳暮・御年始の購入のためか街中が賑わっており、何かと活気づいている。
	ドライブイン	例年より日帰り旅行が増加している。
	ゴルフ場	道路交通法が厳しくなった影響により、酒類の売上げが減少した。
	ゴルフ場	商店街などで年末らしい活気さがあまり見られない。

分野	業種・職種	特徴的意見
家計関連	レジャー施設	景気が悪い現在の状況では、10代から20代といった若年層のイベント参加は難しいと思う。
	理・美容店	消費者は余計なお金を使用しなくなっている。
	理・美容店	男女で比べると、女性のほうが美容といった身だしなみにお金をかけており、男性はお金にシビアになっている。
	クリーニング店	安売りの店舗に客が多く入っているように見受けられる。個人店舗は固定客ばかりで、フリーの客がなかなか来ない。
企業関連	建築設計事務所	残業時間の減少が見られ、また個人的な金銭の貸し借りの話題がよく聞かれる。
	製造業（食品）	来年度に大規模な設備投資を予定している。
	製造業（木材業）	専門業者ではなく、低価格のシルバー人材センターに依頼してリフォーム工事を行う一般家庭が増加している。
	製造業（印刷業）	安値競争に負け、店を閉じる経営者が増加している。これからは店自体に何か特徴を持っていないと生き残れないと思うが、その特徴を創り出せない経営者が多い。
	製造業（石材業）	仕事量に変化はないが、納期が短くなっている。
	製造業（化学工業）	各顧客とも新製品の開発により他社との差別化を図ろうとしているためか、新規の材料・部品のサンプル引合いは増加してきている。
	製造業（金属製品）	企業の倒産が増加しており、先行きが不安である。
	製造業（電気機械器具）	材料・製品ともに価格の引上げの動きが見られる。デフレが収束すれば、景気回復につながる。
	製造業（輸送用機械）	関連会社によっても受注量に増減がある等企業間格差が大きい。
	非製造業（建設業）	日当が出ればいいという価格でやっと受注している。弱肉強食の状況が続いている。
	非製造業（金融業）	大型店に客が流れているため、商店街の人影が少ない。
	非製造業（不動産業）	法人契約から個人契約に変更する企業数が増加傾向にある。
	非製造業（広告代理業）	顧客の資金面の余裕がだんだんなくなってきている。支払いが遅れたり連絡がとりにくくなってきている。
非製造業（コンサルタント業）	零細業者の倒産が起こっている。	
雇用関連	人材派遣業	食品関係がやや忙しい他は、どの業種も忙しいとはいえない。
	求人広告	企業は即戦力になる人材を求めているため、新卒採用数を減らし中途採用数を増やしている傾向にある。
	公共職業安定所	地元企業のリストラや工場移転に伴い離職者の新たな発生が予測される。